

新川会通信

第57号

すまいる

発行
社会福祉法人新川会

〒930-0362
上市町稗田字七郎谷 1-32
Tel (076) 472-1118
Fax (076) 472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 山岸 親史



上市町 中小泉公民館ふれあいいきいきサロンにて
出張ミュージックケア



上市町 眼目山立山寺での清掃活動

<テーマ>

新体制スタート!

取り戻した日常からさらに前進しよう

現在、県や市町村においては、第五次障害福祉計画を策定中です。この計画の主眼は地域共生社会の実現に向けた取り組みであり、福祉施設の入所者の地域生活への移行が成果目標として示されているところです。

あらためて、障害福祉の動向を振り返ってみますと、平成十八年に障害者自立支援法以降は、地域福祉、地域移行こそが福祉という時代になりました。それまでの長い間、障害者支援施設は定員一杯まで利用していただくことが、関係者ができる精一杯の福祉でした。

そして、今年度からは「すべての施設入所者に、地域移行及び日中サービス利用の意向確認を行い、希望に応じたサービス利用にしなければならない」とされました。このように、入所施設は定員削減が求められているのですが、なかなかそうならない現実があることはご存じのとおりです。理念と現実が余りにも乖離しているから、悩ましいのです。重度の障害者が地域で安心して生活するためには、地域社会全体が、重度障害者を受け入れる度量が備わっていないかもしれません。現在は、依然として、在宅でお困りの方が多くおられますし、施設入所の強い要望があることも事実です。

また、知的障害者の場合には、親亡き後の地域生活は、単身で地域で暮らすことを意味することが多く、「日常的な寄り添い支援」が必要な障害特性を考慮すれば、地域移行は相当な困難を伴います。

前置きが長くなりました。こうした状況の中で、法人としては、重度の知的障害が地域で安心して生活できますようお願い、施設入所が困難な状況にある重度の知的の方を対象として、四ツ葉園生活支援センター「小窓」を開設いたしました。開設から二か月余り、行動障害支援の有り様もその時々研究成果を踏まえ変化しており、課題も山積、既にあちこちの修繕が必要となっており、ですが、重度障害者の地域生活に資すべく、法人全体で盛り上げていく所存です。

地域移行・地域生活の流れの中で

統括管理者 山岸 親史

特集 雷鳥苑

立山町の障害者の自立及び社会参加の促進を図るための支援を行うことを目的として平成十六年から「立山町障害者社会参加支援事業」が始まりました。事業の内容としては①芸術・文化に関する事業 ②スポーツ、レクリエーション教室開催 ③その他障害者の社会参加支援のために必要と認められる事業 いずれかに該当する事業活動を実施しています。現在は立山町内にある「雷鳥苑」を含めた五つの団体が事業に参加しています。

事業の設立時から「立山町身体障害者協会」が事務局を担ってくださり、フライングディスク大会や写真教室、陶芸教室、料理教室等、様々な事業活動をしてきました。そして昨年、事業開始から二十年の節目に事務局を雷鳥苑が引き継

ぐこととなりました。昨年度も、例年実施している雷鳥苑の利用者が作った交通安全マスコットの配布や立山町文化祭障害者週間に各事業所で作成した絵画、書道作品の展示を行いました。



障害者週間展示



交通安全マスコット配布

また、コロナウイルス感染症が流行してから他事業所の交流を促す事業活動が中止となっていました。昨年はコロナウイルス感染症の規制が緩和されたということで、十一月に石川県の加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所から桶川千枝先生、駒山裕子先生を招き、立山町みらいぶにて「ミュージック・ケア教室」を開催しました。コロナウイルス感染症が流行していた時には集団でのレクリエーションや運動、他施設、団体との交流に制限がありました。この「ミュージック・ケア教室」では徐々に施設との交流する機会を設けることができ、且つ音楽に合わせて身体を動かすことでコロナ禍の運動不足を解消する機会となりました。今年度もスポーツ、レクリエーション教室を開催したいと考えています。

さらに、今年度は障害があることでコンサートになかなか行けない方にも音楽を届けようと新しい事業活動として演奏家を招いて音楽コンサートの開催を検討しています。立山町障害者社会参加支援事業の事務局として立山町に住む障害者、事業所に通う利用者の社会参加を推進していけるような事業活動の企画運営を立山町をはじめ当事業に加盟する団体からご協力を受け取り組んでいきたいと思えます。



ミュージック・ケア教室

(長瀬主任 記)

四ツ葉園だより



地域の皆様に支えられ、温かく見守ってくださっていることに日々感謝しています。令和六年度は「みんなで笑顔」を目標に、利用者さんが地域の皆様と一緒に活動し、笑い合える取り組みを深めていきます。

教室活動紹介

今年度の各教室クラブ活動の意気込みを先生、担当職員に伺いました。

○生け花教室（金山万由美先生）

季節の花で心が癒されたり、活けたりマをアレンジメントで現し、楽しみましょう！



○音楽教室（川平智恵美先生）

皆さんと一緒に楽しく歌ったりして音楽を楽しめたいなと思っています。



○絵画教室（池田るみ子先生）

一人ひとりの個性を活かす課題を見つけ、楽しく取り組んでもらいたいと思っています。



○茶道教室（加藤則子先生）

各自のできるお点前をゆつくり丁寧にし、お仲間さんのお点前をしっかり見ることが大事にしてほしいです。



○書道教室（種田均先生）

手本を通して、生徒に忠実に寄り添い、生徒共々、元気で一年間頑張りたいと思います。



○太鼓クラブ「スマイル」

今年度女性のメンバーが加わり更にパワーアップ！皆さんの前で良い演奏ができるよう頑張ります。



○エンジョイイクラブ

四ツ葉園では毎月1回エンジョイイクラブ活動を実施しています。昨年度から新しく開始し、主に4つのクラブ活動「音楽クラブ、絵画クラブ、シアタークラブ、チャレンジクラブ」に取り組んでいます。それぞれ利用者さんがやってみたいと思う活動を選んで参加してもらい、とても有意義な時間を過ごすことができていると感じています。

今後の取組みとして、4つのクラブ活動以外にも、利用者さんができそうなことや好きなことを模索しながら活動内容を増やして、様々な経験ができるようにしていきたいと思っています。月1回の活動ですが、利用者さんが楽しみながらできることを少しずつ増やし、それぞれの強みを見出せる充実した活動を目指し、また、四ツ葉園の目標である「明るい笑顔のあふれるところ」の一部分としての活動になるよう、職員一同精一杯努めていきたいと思えます。

（石黒支援員 記）



しまむら衣類販売

昨年度よりしまむらの衣類販売を開始し、昨年度は六月と九月に行いました。大好評だったしまむらの衣類販売を今年度も継続し、四月二十三日にしまむら上り店さんに来園していただき、衣類販売を行いました。たくさんご利用者さんや保護者の方に参加していただき大賑わいの衣類販売となり、利用者さんも自分で好きな衣類やぬいぐるみを購入し、満足しておられたと思います。



四ツ葉園体育館での販売風景

保護者の方で今回参加したかったけれど出来なかったという言葉もたくさんお聞きし、次回も開催を予定しておりますのでたくさんのご参加お待ちしております。

（平井支援員 記）

雷鳥苑だより



音楽で明るく

昨年度は苑祭、ポランティア祭り、期末の集いでハンドベルやドレミパイプの演奏を披露しました。

生活介護(ドレミパイプ)は日中活動、就労B(ハンドベル)は昼休みに練習の時間を設けました。一つの楽器は音色が異なるため、その楽器に合った選曲をするとところから始まりました。候補から多数決で『星に願いを』『さらさら星』『よろこびの歌』『ドロップスの歌』を選びました。

練習に苦戦する中、本番を迎えました。緊張したり観客に集

中しすぎて指揮を見ていなかったり、音を鳴らし忘れることもありました。しかし、お客さんからの拍手やアンコール、保護者の方が見に来られた利用者は「上手にできた!」「お家の人が来ている!」と、とても嬉しそうにしていました。

今年度も音楽活動は行いますが、ハモリやメロディーに音を重ねたり、バージョンアップを目指したいです。また、一部の利用者さんだけでなく、より多くの利用者さんに参加してもらえ

るような場を工夫していきたいと思ひます。

少しでも利用者さんに「できた!楽しい!」を苑生活の中で感じてもらいたいと思ひます。

(園川支援員 記)

さつき苑だより



「さつき苑」新体制スタート!

令和六年四月一日より新しい体制で「さつき苑」が始まりました。昨年度までは多機能型として運営

して運営していたさつき苑ですが、就労継続支援B型の事業所として新たに生まれ変わりました。

新しいさつき苑の目

標として「工賃アップ」と言い



たいところですが、まずは利用者皆さんの生き生きと楽しく仕事をすることだと思っています。これはどの社会でも言えることです。がんばる仕事であれ一人一人が活躍して輝ける存在であることが一番大切だと感じています。

四月に入り姿の見えないかつての仲間を想い「○○さんは?」と利用者さん同士で会話が聞かれましたが、新しい仲間との出会いもありました。旧「工房よつば」から10名の利用者の方が仲間入りして、現在では計28名が利用しておられます。当初は皆さんが不安と緊張が入り混じった雰囲気になるかと思いましたが、自然な空気の中で活動されています。

28名の仲間です。これからは新しいさつき苑をより良いものにしていききたいと思ひます。これからもさつき苑をよろしくお願ひします。

(松岩主任 記)

つつじ苑だより



今年度の目標と新しい取り組み

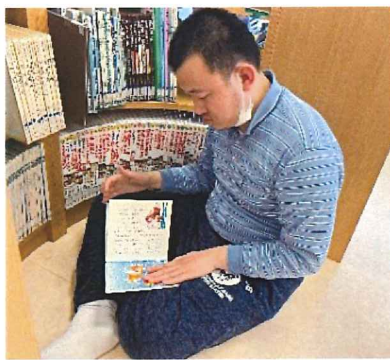
今年度のつつじ苑は「一人ひとりの個性の発見と情緒の安定」をテーマとして、利用者さんと関わりを深めていこうと思っています。

生活介護班は日課で運動・散歩をたくさんしています。つつじ苑周辺には色々な公園があり、好きな遊具や落ち着ける場所を探し楽しみがあります。また、少し遠いですが滑川市子ども図書館に行つて絵本の読み聞かせに参加しています。一緒に歌を楽しんだり、好きな本を探したりと楽しい時間となっております。一年通して子ども図書館との交流ができればと計画しています。



今年度は室内プラネタリウムやアロマテラピーなどを利用して、落ち着いた時間を過ごせるようにしていきます。落ち着いた時間（スヌーズレン）と運動や踊りで身体を動かす時間をメリハリをつけて進めていきます。

就労班の利用者さんを中心に自治会の活動を積極的に進めていこうと思います。利用者さんが主体的に行事を楽しめるように、利用者さんの意見をたくさん取り入れていけたらと思います。今年度も笑顔の溢れる一年になるように、利用者さんと職員も一緒に楽しく過ごしていきたいです。（村上支援員 記）



小窓だより

新事業スタート

令和六年四月一日、四ツ葉園の敷地内に「生活支援センター小窓」が開所いたしました。当事業所は、重度障害者の方が地域で安心して暮らせるよう支援することを目的とした、生活介護事業所です。また、強度行動障害の方にも対応できる設備を整備し、支援スタッフも手厚く配置しています。さつき苑、つつじ苑から移行された方、地域から来られた方、現在合わせて



17名の利用者さんと、10名のスタッフで日々の活動を行っています。小窓では、3つの班に分かれ個別作業を行います。少人数の班編成、集中して作業に取り組むためのパーテーション設置等、個々の特性に合わせた環境を設定しています。開所にあたり、スタッフも緊張の心持ちでした。新しい環境ということでも、当初利用者さんからも緊張感を感じられたものの、あつという間に小窓での生活に馴染まれ、皆さんの順応力の高さに一同感心させられています。



毎日賑やかな声が響く小窓です。これからも、皆さんが楽しく通える場所となるよう、職員一同努めていきます。温かく見守っていただきますよう、よろしくお願いたします。

（伊藤沙支援員 記）

グループホームだより



有言実行

昨年度の新年会で利用者の皆さん一人ひとりに今年頑張りたいことや目標を発表していただきました。「お仕事を頑張る」「時間を守る」など…。今年度は発表したことを有言実行し、それらを達成することができるよう頑張りました！

GW外出

帰省のない方が少しでも楽しんで過ごすことができるよう、五月四日（土）GW外出を行いました。

昼食は滑川市民交流プラザ四階にある「かじやばし」へ行きました。富山湾を一望しながら美味しい食事をいただき、綺麗な景色に癒されながら、お腹を満たしました。皆さんあつという間に完食され、「美味し



かった！また来たい！」という声が聞かれました。

滑川ショッピングセンター「エール」と道の駅「KOKOKUろべ」ではショッピングやゲームを楽しみました。本や人形キーホルダーなど小遣いの中から欲しいものを購入したり、クレーンゲームにも挑戦したりしました。またこの日は気温が高く暑かったため、おやつにはアイスクリームを頬張りました。

「ミラージュランド」では遊園地内を散策したり、屋台のゲームに参加したりしました。散策中、利用者さんが大好きなキャラクターに出会い、飛び跳ねて喜んでいいる姿も見られました。

雲一つない晴天でお出かけ日和になり、皆さんの笑顔が溢れた日になりました。

（柿沢支援員 記）

職員インタビュー

毎年恒例、二年目職員にインタビューのコーナー。今回は、加藤功雅支援員と、昨年十一月から中途入職の女川朔宣支援員にお話を聞きました。

Q1 一年間を振り返って楽しかったことは何ですか？

加藤 利用者さんといろんな話をして盛り上がったことです。また、行事の中で利用者さんの見たことがないような笑顔や楽しんでる表情を見られたことが楽しかったです。



女川 前の会社は製薬

会社で薬を作っていたので、今は180度違ってすべてが新鮮です。利用者さんが積極的に話しかけてくれて、とてもありがたく楽しく感じています。

Q2 逆に大変だったことは何ですか？

加藤 自分が主務として動いた選択外出や定例会の内容を考えるのが一番大変でした。利用者さんに

合わせて行ける場所やできることを考えたり、その中で何をしたら楽しめるのか考えたりしたのが難しかったです。

女川 前の前の会社では障害を持った方に携わる仕事をしていましたが、長くブランクがあったので、利用者さんどう接していいのかわ最初は手探りな状態で大変でした。

今年の元旦の日に勤務だったので、四ツ葉園でも地震でゆれて大変だったのも思い出です。

Q3 二年目の抱負・目標・今後の意気込みは？

加藤 一年目は自分のことで精一杯だった気がするのですが、もっと利用者さんに目を向けて支援をしたいです。特に、自分の担当利用者さんと外出したり必要な物を素早く揃えたりしたいです。

女川 ミスなく仕事を頑張ります。



加藤支援員・女川支援員